



NO. 8

令和2年11月2日

神根小だより

11月号 川口市立神根小学校

在籍児童数 男子(185)名 女子(142)名 計(327)名 15学級

「自己肯定感をはぐくむために」

校長 中村 義郎

日中は、温かさを感じることもありますが、朝晩、冷え込むことが多くなりました。体調管理には十分にお気をつけください。

さて、本校では昨年度「ユニバーサルデザインの視点を生かしたわかる授業の実践」を研究主題として学校研修を進めてきました。様々な個性、特性をもつどの子に対しても分かりやすい授業実践をめざした研究です。その研究の成果は、今年度の学校教育の中にも生かされています。

誰でも、得意なこと、苦手なことがあります。

学校では、子供たちの得意なことを伸ばし、苦手なことには個別に支援し、力をつけることができるよう配慮しています。そうして、児童の「自己肯定感」高め、生きるために必要な力を身に付けさせることに力を入れています。「自己肯定感」をはぐくむことは、子供たちの成長にとって、とても大切なことです。

文字を読みとったり、書いたりすることが苦手という子がいます。あるいは、じっとしていることが苦手だったり、人と関わるのが苦手だったりするという子もいます。一概にはいえませんが、生まれつき脳の機能等に原因がある場合もあるということです。

苦手克服に苦しんでいるお子さんには、まわりの大人が、その子の特性の理解をして、そして適切な支援をすることが重要です。他の子と同じようにできないからといって、頭ごなしに叱ったり、否定的なメッセージを与え続けたりすることは、まわりの人にとっても、本人にとっても苦しいことです。

大切なことは、早い段階でその子の特性に気づき、適切な関わりや支援を開始することです。そうすることで、子供は、自分のペースで、苦手を克服しようとし、更に得意なことを伸ばすことができます。肯定的なメッセージを受け取ることは、自分に自信をもち、すなわち「自己肯定感」はぐくむことにつながります。

「二次障害」という言葉があります。他から否定的なメッセージを受け取り続けたり、頑張ってもうまくいかないことが続いたりすることによって、自分への自信を失い、体や心に不調をきたしてしまう状態です。このことが原因で、暴力的な行動をしたり、不登校になったりすることもあるそうです。こうなりますと、その子のもっていたよさや得意なことでも十分に発揮できなくなり、苦しい思いをすることになってしまいます。

教育の目的は、子供たちが将来、社会において自立して生活するために必要な力を身に付けることです。長い目で見た時に、今、どうすることがその子の将来にとって最も有効なのかを考え、適切な関わりや支援を早期に行うことが大切です。

お子さんの成長や発達に関して、ご心配なことがあれば、お気軽に学校にご相談ください。神根小では、お子さんに合った適切な関わり方や支援について、必要に応じて関係機関とも連携して、ともに考え、相談できる体制づくりを行っています。